

鏤金鞍上有威風 暫駐征師涼蔭中
悔擁千軍欠心陣 奇兵一過大營空

今川義元(いまがわよしもと)
(榛葉竹庭)(しんばちくてい)

鏤金鞍上(ろうきんあんじょう)
威風(いふう) 有り(あ)

暫く(しばら) 征師(せいし) 駐む(とど) 涼蔭(りょういん) の 中(うち)

悔ゆらくは 千軍(せんぐん) を 擁して 心陣(しんじん) を 欠く(か) を

奇兵(きへい)
一過(いつか)
大營(たいえい)
空し(むなし)

通釈 黄金をちりばめた鞍に打ち跨がり、威風堂々として上洛の途に就いた今川義元は、暫時涼しい木陰に遠征軍を駐めた。ただ悔いが残るのは、大軍を率いて居たにも拘らず、心の備えを欠いたが為に、信長の三千の奇襲兵が過ぎ去るや、義元の陣営は忽ち一空に帰してしまつたことである。

解説 今川氏親の三男、義元は初(はじめ)に駿河国、瀬古の善徳寺に居たが、長兄が早世するや次兄と家督を争い、天文五年これを倒して今川家を継いだ。検地並びに法度の制定など内政を整備すると共に、遠江・三河をも制して東海地方第一の勢力を誇るに至つた。そして永禄三年五月、大軍を動員して上洛の途に就き、同月十九日桶狭間に陣したが、織田信長の奇襲をうけて無惨な最期を遂げた。